

kuraray

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第140期 期末報告書
2020年1月1日～2020年12月31日

証券コード:3405

CONTENTS

株主の皆様へ	01
決算ハイライト	03
社長インタビュー	06
クラレグループトピックス	09
クラレの事業所探究 鹿島事業所	11
株式情報	14
会社概要	巻末



株主の皆様へ



2020年度について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年1月に代表取締役社長に就任いたしました川原仁です。

クラレグループの発展に微力ながら尽くしてまいりますので、株主の皆様には引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年度(2020年1月1日～2020年12月31日)の世界経済は、米中貿易摩擦の長期化や各地域における地政学的リスクの影響により世界貿易が縮小するなか、年初より新型コロナウイルス感染症が全世界に広がった結果、急速に落ち込みました。このような状況において、経営成績につきましても、売上高は前年同期比34,009百万円(5.9%)減の541,797百万円、営業利益は9,831百万円(18.1%)減の44,341百万円、経常利益は8,530百万円(17.7%)減の39,740百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2,570百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失1,956百万円)となりました。なお、当連結会計年度において、2018年5月に米国子会社で発生した火災事故などに関し、23,196百万円を訴訟関連損失として特別損失に計上しました。

当社グループは長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」のありたい姿である「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」の実現を目指し、当連結会計年度を最終年度とする

中期経営計画「PROUD 2020」で掲げた主要経営戦略の具体的施策を実行し、中長期的な視点に基づき、新たな事業ポートフォリオ構築への取り組みを進めてきました。「PROUD 2020」におけるこれまでの3年間は、世界最大の活性炭メーカーであるカルゴン・カーボン社を買収し、さらなる事業拡大を目指して米国および欧州での活性炭設備増強を決定しました。また、イソプレンにおけるタイ新工場建設の投資を決定しました。さらに、光学用ポパールフィルムや水溶性ポパールフィルムの設備増強など、成長に向けた戦略の具体的施策についても着実に実行し、将来の安定したポートフォリオ構築への取り組みを行いました。

新型コロナウイルス感染拡大による影響が不透明であることに鑑み、次期中期経営計画を2022年から当社の創立100周年となる2026年までの5か年計画とし、2021年は単年度経営計画とします。2021年は「PROUD 2020」で投資決定をしたイソプレンのタイ新工場建設の着実な推進や、環境ソリューション事業(活性炭事業)におけるカルゴン・カーボン社との統合シナジー発現の加速とともに、ビニリアセテート関連事業のより一層の拡大に注力します。また、グループ全社のデジタル戦略を進め、業務プロセス改革や迅速な事業戦略の構築を可能にするとともに、デジタル人材の育成にも注力します。このように競争優位性を強化しつつ、次期

中期経営計画に繋げていく所存です。

当社は株主に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、「PROUD 2020」(2018年度～2020年度)期間中においては、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、かつ1株につき年間配当金40円以上を基本方針としていました。この方針のもと、2020年度の間配当金は1株につき21円、期末配当金は19円とさせていただき、当期の配当金は1株につき40円となります。

2021年度は「PROUD 2020」期間の方針を踏襲し、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、かつ1株につき年間配当金40円以上を基本方針とします。この方針のもと、2021年度の配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益300億円を前提に、中間配当20円、期末配当20円とし、年間配当40円(配当性向45.86%)とする予定です。

株主の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 川原 仁

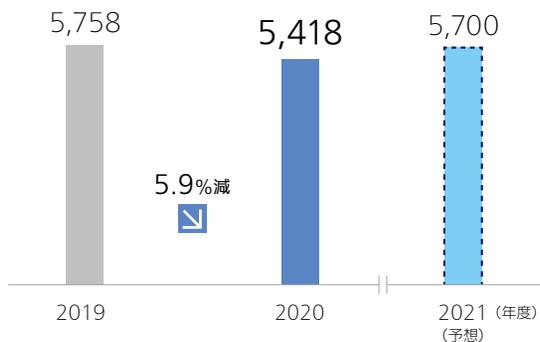
決算ハイライト

主要科目

当社の2020年度の業績は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により経済活動が停滞したことを受け、多くの事業で販売が減少し、それに伴う生産調整をおこなった結果、売上・営業利益・経常利益ともに前年を下回りました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は米国における訴訟に関する損失の影響を受けました。

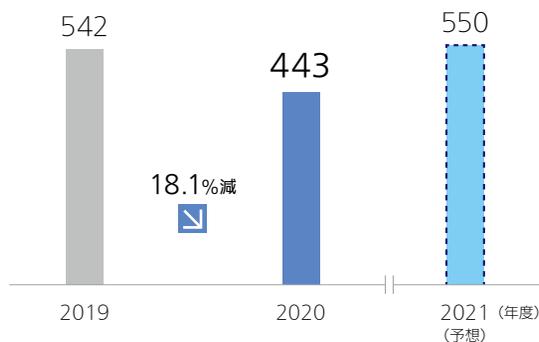
■売上高

(単位:億円)



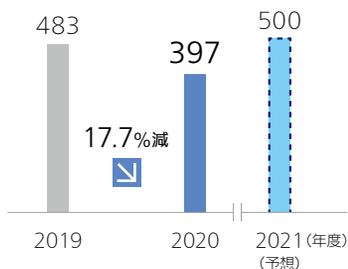
■営業利益

(単位:億円)



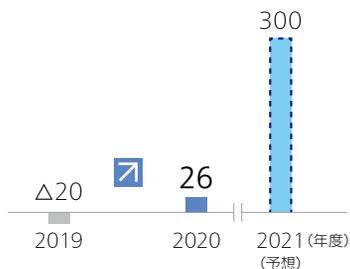
■経常利益

(単位:億円)



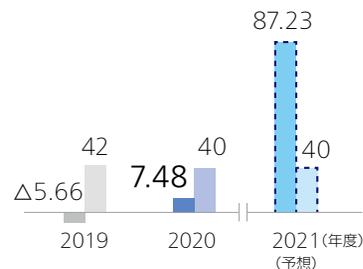
■親会社株主に帰属する 当期純利益又は損失(△)

(単位:億円)



■1株当たり年間配当金/ 1株当たり当期純利益又は損失(△)

(単位:円)

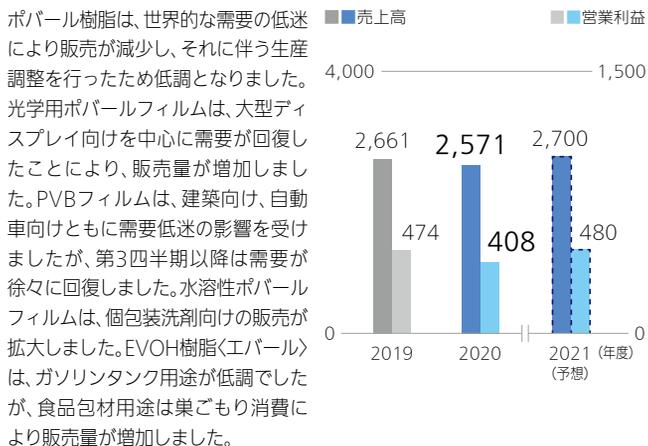


前提としている平均為替、国産ナフサ価格

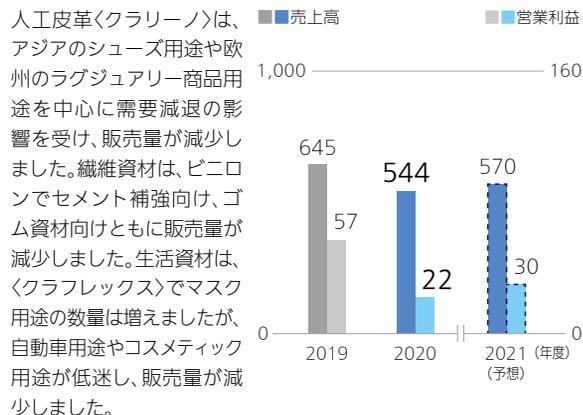
- 2019年度:米ドル109円、ユーロ122円、国産ナフサ43千円/kl
- 2020年度:米ドル107円、ユーロ122円、国産ナフサ34千円/kl
- 2021年度:米ドル105円、ユーロ125円、国産ナフサ35千円/kl

セグメント別の概況

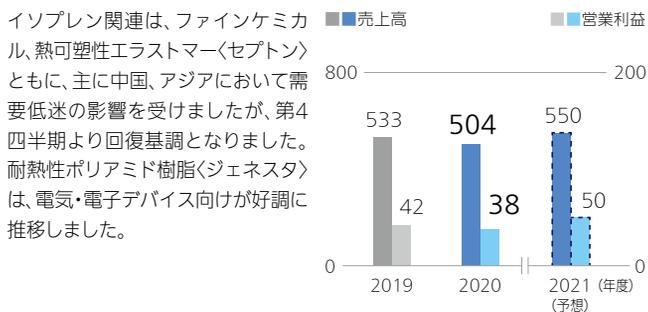
ビニルアセテート



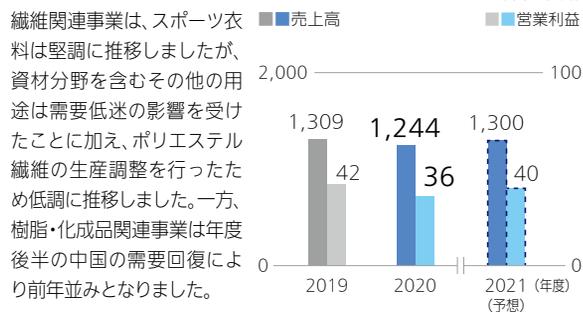
繊維



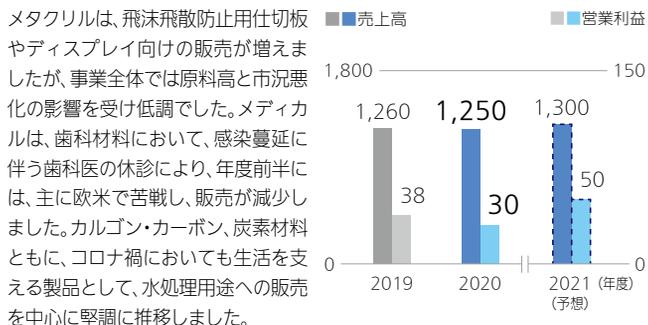
イソプレン



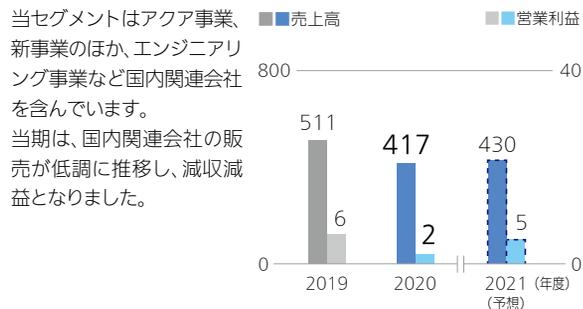
トレーディング



機能材料



その他



財務情報

連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
売上高	5,418	5,758
営業利益	443	542
経常利益	397	483
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	26	△ 20
各種前提		
円/ドル	107	109
円/ユーロ	122	122
国産ナフサ価格(千円/kg)	34	43

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
営業活動によるキャッシュ・フロー	799	956
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 640	△ 894
財務活動によるキャッシュ・フロー	915	△ 15

*1:2020年1月1日~2020年12月31日

*2:2019年1月1日~2019年12月31日

連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

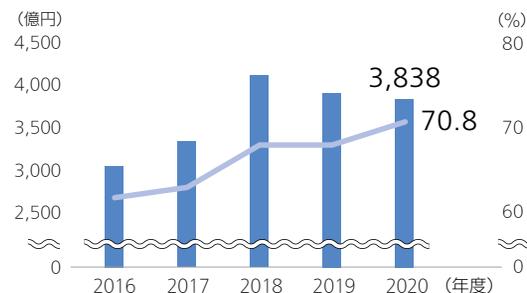
	当期*3	前期*4
資産の部		
流動資産	4,612	3,947
固定資産	5,904	5,964
資産合計	10,516	9,911
負債の部		
流動負債	1,951	2,017
固定負債	3,411	2,509
負債合計	5,361	4,526
純資産の部		
株主資本	4,962	5,082
その他の包括利益累計額	26	170
その他	167	134
純資産合計	5,155	5,385
負債および純資産合計	10,516	9,911

*3:2020年12月31日現在

*4:2019年12月31日現在

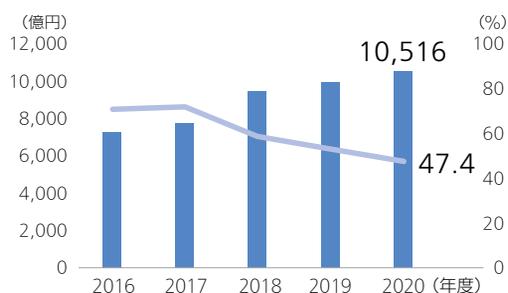
海外売上高推移

■ 海外売上高(億円) — 海外売上高比率(%)



総資産・自己資本比率

■ 総資産(億円) — 自己資本比率(%)



世界の人々から「かけがえのない会社」 として認められるように



代表取締役社長 川原 仁

Q 1

まずは新社長としての今のお気持ちと、これまでどのような仕事に携わってきたのかをお聞かせください。

A 昨年10月に伊藤正明社長(当時)に社長交代を告げられ、その後準備を進めてまいりました。年始に全世界のグループ社員に向け、挨拶と抱負を述べ、あらためて重責を実感し、身が引き締まる思いを持つと同時に、今後のクラレグループの発展のため、真摯に業務に取り組み、力を尽くしていこうと強く決意しました。

Q 2

2020年度を振り返っていかがでしたか。

A 2020年度は、米中貿易摩擦の長期化や各地域における地政学的リスクの影響、さらには年初より新型コロナウイルス感染症が全世界に広がった結果、世界経済は上期を中心に大きく落ち込みました。

このような環境下、クラレグループは、産業のサプライチェーンを支えるべく、安全の確保、感染防止策を徹底し、事業活動を継続してまいりました。当社グループの事業においては、電気・電子用途や食品包材用途はコロナ禍においても順調に推移したものの、自動車や建築用途の需要は大きく落ち込み、年後半より緩やかに回復しましたが、通期では前年を大きく下回りました。

ビニルアセテートセグメントでは、光学用ポパールフィルムは大型ディスプレイ向けを中心に需要が回復しました。ガスバリア樹脂〈エパール〉は、ガソリントank用途が低調でしたが、食品包材用途は巣ごもり消費により販売量が増加しました。イソプレンセグメントは熱可塑性エラストマー〈セプトン〉が需要低迷の影響を受けましたが、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は、電気・電子デバイス用途向けが好調でした。機能材料セグメントは、メディカルが歯科材料において年度前半に苦戦しましたが、カルゴン・カーボン、炭素材料は、水処理用途への販売を中心に堅調に推移しました。繊維セグメントにおいて繊維資材は、ビニロンでセメント補強向け、ゴム資材向けともに販売量が減少しました。その結果、売上高5,418億円、営業利益443億円、経常利益397億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、2018年に米国子会社で発生した火災事故に係る訴訟関連損失を計上したため、26億円と計画を下回る結果となりました。

Q3 2020年度に実施した 施策を教えてください。

A 前中期経営計画「PROUD 2020」の最終年度となる2020年度は、業績面では厳しい状況となりましたが、長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」で掲げたありたい姿の実現に向け、主要経営戦略の具体的な施策を着実に実行しました。

ビニルアセテートセグメントでは光学用ポパールフィルムで倉敷事業所の広幅新ラインが稼働を開始しました。水溶性ポパールフィルムは米国工場の新ラインが稼働を開始したのに続き、次の成長に向けた投資としてポー



ランド工場の新設を決定しました。イソプレンセグメントではタイにおけるイソプレンケミカル、〈セプトン〉、〈ジェネスタ〉の新プラントの建設工事を進めており、コロナ影響により工期に若干の遅れはあるものの、2022年後半の稼働を目指しています。機能材料セグメントではカルゴン・カーボン社との統合を着実に進めるとともに、高機能活性炭の需要拡大に合わせカルゴン・カーボン社米国既存工場における設備増強を決定し、2022年末の稼働を予定しています。さらにベルギー子会社では工業用途の需要拡大に合わせ、再生活性炭の設備増強を決定し、2022年央の稼働を予定しております。繊維セグメントでは、高機能不織布の需要拡大に対応するため増設工事中のメルトブローン不織布生産設備を、感染予防対策に不可欠なマスクフィルター用不織布が生産可能な設備に変更し、2020年11月から供給を開始しました。そのほか、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、在宅勤務の適用拡大や時差勤務の実施など制度拡充をはかりました。

Q4

2021年度の重点施策を教えてください。

A 次期中期経営計画を2022年からの5か年計画とし、2021年は単年度経営計画として実行いたします。

2021年度の重点施策として、まず、将来の成長を担うイソプレンセグメントのタイププロジェクトの推進、2021年1月1日付で炭素材料事業とカルゴン・カーボン事業を統合した環境ソリューション事業の拡大と統合シナジーの発現を加速させます。

ビニルアセテートセグメントでは〈エパール〉のアジア新工場検討、環境対応型食品包材向けバイオマス由来のガスバリア材〈プランティック〉の着実な事業拡大を実施します。水溶性ポパールフィルムのポーランド新工場の建設を推進し、2022年央の稼働を目指します。

また、新事業領域の拡大として、液晶ポリマーフィルムを用いた銅張積層板〈ベクスター FCCL〉量産設備の導入を検討します。さらに、グループ全社のデジタル戦略を進め、業務プロセス改革や迅速な事業戦略の構築を可能にするとともに、デジタル人材の育成に注力します。これら施策の実行を通して競争優位の強化を図り、2022年から新たに始まる次期中期経営計画に繋げてまいります。

Q5

クラレグループをどのような会社になりたいとお考えですか。

A 世界の人々から「かけがえのない会社」として認められるようになりたいと思います。

そのためにはまず、「安全で、安心して働ける会社」であ

ること。当社の企業ステートメントの行動原則に掲げた『安全はすべての礎』の言葉に込められた意味をグループ社員全員に十分に浸透させ、安全で、安心して働ける会社にする予定です。

また、クラレグループには様々な個性、多様性を持つ社員が世界中にいます。社員一人ひとりが社会人・企業人としての高い倫理観と強い責任意識を持ち、行動することで、個人の成長と企業の成長が一体化できるようにしたいと思います。さらには、グループ社員が向上意欲、突破力、たくましさを備え、前向きな姿勢を持ち、環境の変化を機会ととらえることで、変化をしながら進化をする、活力のある元気な会社でありたいと思います。

クラレグループは2026年に創立100周年を迎えます。その節目となる2026年に向けた長期ビジョン「Kuraray Vision 2026」のありたい姿である「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」の実現を目指し、グループ社員が一丸となり、「世のため人のため、他人のやれないことをやる」という企業理念を胸に、クラレらしいやり方で社会への貢献を果たしていきたいと思います。

良き企業市民としての存在感を示し、世の中にクラレしかできない価値を生むことで、世界の人々からクラレグループが「かけがえのない会社」として認められるようになりたいと考えています。



TOPICS

2020年度のクラレグループの
主なニュースをご紹介します。

7月

THE
DIGITAL
MATERIAL SHOW
by
MATERIALS SHOW SPOT & MATSUDA



「THE DIGITAL MATERIAL SHOW」WEBサイト

米国オンライン展示会 「THE DIGITAL MATERIAL SHOW」に出展

アパレルやスポーツブランドなどと素材サプライヤーをつなぐ米国の見本市「THE DIGITAL MATERIAL SHOW」。同展は毎年ポートランドで開催されていましたが、今回はオンライン形式となり、日本にいながら世界中のメーカーなどつながれるこのイベントに当社も出展しました。人工皮革<クラリーノ>、面ファスナー<マジックテープ><フリーマジック>、熱可塑性エラストマーを使用したメッシュフィルム・不織布、衝撃吸収繊維、スエード調織物、坑ピリング性ポリエステル生地、ポパールフィルム製の環境対応型包装資材などを紹介しました。

9月



ケムパイロン社・フェルイ工場(ベルギー)

カルゴン・カーボン社ベルギー子会社における 再生炭設備の増設

クラレグループのカルゴン・カーボン社は再生炭の世界的な需要拡大に対応するため、ベルギーのフェルイ工場において、再生炭の生産設備の増設を決定。高熱処理をすることで再び吸着性能を回復させることが可能です。環境負荷低減の観点からこの再生炭への注目は年々高まっており、特に環境意識の高い欧州では排出ガス処理、排水浄化などの工業用途で再生炭の需要が拡大しています。この拠点から欧州をはじめ、需要が拡大する地域に活性炭を安定供給し、環境問題へのさらなるソリューションを提供していきます。

10月



第4弾 CMのカット

「クラレの真ん中を知る時が来た」 シリーズCM 第4弾を放映

2018年からスタートした企業広告キャンペーンでは、クラレグループが事業や製品を通じて社会課題の解決に貢献していることを、社員の“思い”として紹介しています。第4弾となる本作は、活性炭による「大気浄化」がテーマ。「活性炭できれいな空気をつくりたい」という研究員の思いを描くことから、クラレグループが活性炭事業を通じて環境問題の解決に貢献していることや、熱い思いを持った「人」の集まりであると知ってもらえることも願っています。

12月



感謝状

医療物資の増産に貢献した企業として 経済産業大臣より感謝状を受領

クラレグループは、新型コロナウイルス感染症流行に際して、医療物資等の緊急増産を行い、国民生活の安定に大きく貢献した企業として、経済産業大臣より感謝状を受領しました。これはかねてより増設中のメルトブローン不織布生産設備を、感染予防対策に不可欠なマスクフィルター用メルトブローン不織布の生産設備に変更し、2020年11月から増産・供給をスタートしたことが評価されたものです。今後も、高品質なマスクフィルター用メルトブローン不織布の供給を通じて、国民生活の安定と向上に貢献できるよう取り組んでいきます。

11月

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への 賛同表明について

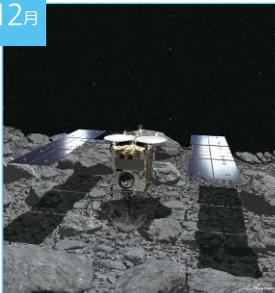
当社は、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言に賛同を表明しました。TCFDは、金融システムの安定化を図る国際的組織である金融安定理事会(FSB)の下に設置され、2017年6月に気候変動がもたらすリスクと機会について情報開示を求める提言を公表しました。この提言には、企業が気候変動のリスク・機会を認識し経営戦略に織り込むことの重要性が言及されています。クラレグループは、近年ますます重要性が高まっている気候変動問題に対し、サステナビリティ活動における重要課題(マテリアリティ)の一つとして、「基盤強化のための価値づくり」の「資源の有効利用と環境負荷の削減」、および「事業を通じた価値づくり」の「自然環境の向上」の中に位置づけた上で、取り組みを進めています。

1-6月

2020年1-6月の クラレグループ トピックス

- 欧州に水溶性ポパルフィルム生産設備を新設
- クラレ西条事業所 第29回観桜会の開催を中止、ドローンで撮影した桜の動画をホームページに公開
- クラレオンライン展示会を開催
- プラスチックシンチレーションファイバー(PSF)が第52回日化協技術賞 技術特別賞を受賞
- 米国カルボン・カーボン社における活性炭生産設備の増設
- 世界包装機構「ワールドスターアワード」の「プレジデントアワード(President's Award)」部門銅賞を受賞
- マスクフィルター用不織布の国内向け生産体制を強化

12月



「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」に到着する想像図
(イラスト: 池下草裕)

〈ベクトラン〉が小惑星探査機「はやぶさ2」 搭載装置のサンプルホーンに採用

2020年12月6日に地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ2号」。小惑星表面から石や砂のサンプルを採取する「サンプルホーン」に、ポリアクリレート繊維〈ベクトラン〉が採用されました。サンプルホーンには対貫通性や衝撃緩和性などが求められ、〈ベクトラン〉の広い温度域での強度や寸法安定性が活かされました。今後も宇宙開発の現場を始め、様々な分野での技術開発の一助となることが期待されます。

クラレの 事業所探究 シリーズ



イソプレンセグメントの中心的な生産拠点として
幅広い製品を開発・生産

鹿島事業所



クラレ鹿島事業所は利根川、北浦、霞ヶ浦などの豊富な水源に囲まれた茨城県鹿島臨海工業地帯、東部コンビナートに位置しています。イソプレンセグメントの中心的な生産事業所として、イソプレン系化学品、熱可塑性エラストマー〈セプトン〉〈ハイブラー〉、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉を生産しています。最近では、新しい事業である銅張積層板〈ベクスター FCCL〉の生産を開始しました。



主な製品群 : 世界トップシェア製品

イソプレン系化学品



●機能・特徴
幅広い製品群を有し、いずれも各種化学品の原料として、最終製品に欠かせない機能を付加する役割を果たしています。

●用途
洗剤、化粧品、香料、医薬、農業中間体などに使われています。

●鹿島事業所生産能力
非公表

熱可塑性エラストマー 〈セプトン〉〈ハイブラー〉



●機能・特徴
ゴムのように柔らかく弾性があります。耐熱性、耐候性に優れ、高い電気絶縁性を有するとともに、リサイクルが可能などから、幅広い製品に使用されています。

●用途
自動車部品、家電、筆記具、玩具、スポーツ用品などに使われています。

●鹿島事業所生産能力
23,000t/年

液状ゴム〈クラブレン〉



●機能・特徴
イソプレン、ブタジエンなどを原料とした粘性の高い液状ゴムです。主にタイヤなどのゴム製品に添加され、固形ゴムと結合するため、最終製品の品質安定に寄与します。

●用途
自動車タイヤの加工助剤および機能付与、高機能粘接着剤やシーリング材などに使われています。

●鹿島事業所生産能力
非公表

耐熱性ポリアミド樹脂 〈ジェネスタ〉



●機能・特徴
当社が原料モノマーから開発したポリアミド系エンジニアリングプラスチックです。耐熱性及び耐薬品性に優れます。

●用途
携帯電話やパソコンなどの電子部品のコネクタやLED光源の反射板、自動車部品にも使われています。

●鹿島事業所生産能力
9,000t/年

銅張積層板 〈ベクスター FCCL〉



●機能・特徴
クラレ独自の製膜技術による液晶ポリマー(LCP)フィルムに銅箔をラミネートした製品です。高速通信に必要な高周波数での電気特性に優れており、電気信号をスピーディーに通し、ロスを最小限に抑えます。

●用途
スマートフォン、車載用ミリ波レーダー、通信基地局、ウェアラブルデバイスの回路用基板材料など。

●鹿島事業所生産能力
非公表

鹿島事業所の これまでの歩み



鹿島事業所 の 特徴

イソプレンセグメントを担う事業所

ナフサを分解することで得られるC4留分を基幹原料とし、独自技術を用いたイソプレン系化学品を数多く展開しており、その生産および開発の中核を担う事業所です。鹿島事業所で生産される各製品は家電、化粧品、トイレタリー製品、自動車部材や電気・電子部品などに使われる高機能素材として、今後一層の需要拡大が見込まれます。イソプレンセグメントは将来ビニルアセテートに次ぐ、当社の収益の柱とすべく、現在、グローバル供給体制の強化に向け、タイで新プラントを建設中であり、鹿島事業所はそのマザープラントとしての使命を持つ事業所でもあります。

PICKUP

ゴムの弾性とプラスチックの成形性をもつ

熱可塑性エラストマー 〈セプトン〉〈ハイブラー〉

熱可塑性エラストマー〈セプトン〉は、広い温度範囲でゴムのような弾性を示す一方、加熱することでプラスチックのように成形することが可能です。〈ハイブラー〉は、〈セプトン〉をベースに独自技術を加えて開発しており、最大の特徴は「制振性能」で、伝えられた振動をすばやく減衰させます。これらは、自動車、家電、雑貨などに用いられる各種部材の高機能化ニーズの高まりとともに、採用が拡大しています。また、リサイクル性に優れ、環境に優しいことも特徴です。



クラレ独自の技術から生まれた

新しい耐熱性ポリアミド樹脂 〈ジェネスタ〉

PA9T〈ジェネスタ〉は、クラレが原料モノマーから自社開発した、ポリアミド系エンジニアリング・プラスチックです。低吸水性、耐熱性、耐薬品性、高摺動性（摩擦に強い）などの特徴があり、まるで金属のような強さの樹脂です。一方、プラスチックの成形性も兼ね備えているため、各デバイスの高性能・小型化や自動車の軽量化に合わせて採用件数を増やしており、着実に事業を拡大させています。



働き方改革推進中!

生産性の向上を目指し、鹿島事業所では様々な取り組みを推進しています。

定例会議の削減や「残業の見える化」等の施策に加え、2018年7月から2020年3月まで、外部コンサルティング会社の協力を得ながら、働き方改革プロジェクト「わくわくワークプロジェクト」に取り組みました。「業務内容の見直し」や「部下の育成」「組織連携強化」などについて、現場第一線の責任者が「ありがたい姿への思い」やアクションプランを示して管理職を含む組織全体で共有し、働き方改革の「一歩」を踏み出しました。これらの活動を実施する中で、事業所全



体の残業時間の削減と年休取得率の向上に早くも成果が現れてきています。

● 1995年

OPT
光学デバイス用
スタンプ

● 2000年

ノンジアミン
〈ジェネスタ〉
原料

● 2006年

熱可塑性
ポリウレタン
〈クラミロン〉

● 2008年

耐熱性
ポリアミド樹脂
〈ジェネスタ〉

● 2011年

太陽光集光レンズ
(2017年
生産停止)

● 2013年

LEDイルミネーション
向け異方性拡散シート
〈レジェンダ〉

● 2020年

銅張積層板
〈バクスター FCCL〉





事業所長に聞く

クラレを支える 鹿島事業所の様々なチカラ

鹿島事業所長 有元 秀樹

Q1

安全への取り組みを教えてください。

A 行動原則「安全はすべての礎」のもと、事業所で働く全員が安全に安心して働ける「10年間無事故・無災害事業所」を目指しています。そのために、基本となる危険予知と指差し確認が自然にできる行動習慣の醸成、不安全な状態を見かけたら気兼ねなく注意し合える雰囲気づくり、異常の予兆発見とトラブル対応能力の向上のための事例研究等、様々な活動に取り組んでいます。これらの活動を通じて、安全意識と危険感受性が高く、自ら考え行動できる人材の育成に努めています。

Q3

地域社会とのかかわりについて教えてください。

A 2020年は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら一部の活動を自粛せざるを得ませんでした。地域社会の一員として、例年様々な取り組みを行っています。小学生のお子さんとその家族を対象にした「おもしろ化学教室」や事業所周辺のボランティア清掃活動、小学校への図書への寄付などを通じて、地域との交流を深めています。また、障がい者支援施設の皆さんを招待して体育館で行っているレクリエーション大会には、毎回100名近い参加をいただいています。

Q2

品質への取り組み(こだわり)を教えてください。

A 各部署がISO9001による品質マネジメントシステムを着実に運用し、本社と共に部署横断的に連携を取りながら製品品質および顧客満足度の向上に努めています。また、グローバルSAPシステム構築の日本先行事業所としての役割も担っており、グローバル化に対応した品質保証体制の構築にも取り組んでいます。お客様に安心な高付加価値の製品を安定して提供することはもちろんのこと、自らも成長できる活動として取り組んでいます。

Q4

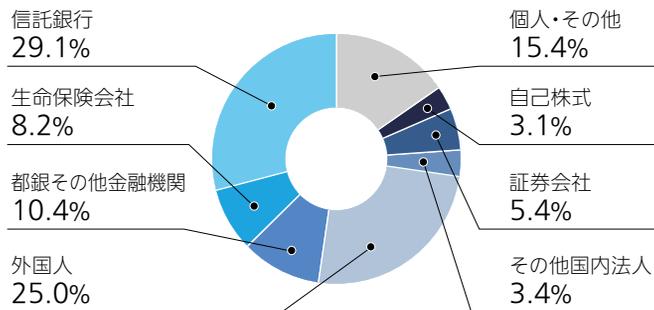
今後どのような事業所を目指すのか教えてください。

A イソプレンセグメントの開発・生産を担う中心的事業所として、従来の事業活動に加え、建設中のタイプラントを含む海外プラントのマザープラントとしての役割や、〈ベクスター〉銅張積層板や微細成形光学部品などの新事業を開発・育成する役割を担っています。そして、これらの機能を持つ事業所として大いに存在感を示し、事業所で働く全員の眼差しが生き活きと輝いた、関係者の皆様から「クラレ鹿島の人元気だね!」と言ってもらえるような事業所を目指します。

株式の状況

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000株	354,863,603株	61,980名

株主構成 (持株比率)



株式に関する住所変更等のお届出 およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)

投資家向けページのご案内



当社Webサイト内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>



お知らせ

株主優待制度について

2020年度12月末の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に、保有期間に応じてオリジナルカタログギフトを贈呈します。

カタログギフトには当社グループの製品を使用した商品や、大原美術館や倉敷国際ホテルなど当社関連施設の利用優待券、当社グループ国内拠点所在地の名産グルメなどを掲載しています。(対象となる株主様にはカタログを同封しております)

なお、2021年6月末の株主名簿を対象として、2022年版オリジナルカレンダーをプレゼントします。2021年9月上旬頃、ハガキ等でご希望をおうかがいします。詳しくは次号クラレ通信をご覧ください。

2020年度の「社会貢献ギフト」倉敷市西日本豪雨災害義援金受付コースへのお申し込みは、総額91万4千円となり、お申し込みいただいた皆様に代わり寄付させていただきました。たくさんのご賛同、誠にありがとうございました。

肅啓

この度は、「倉敷市西日本豪雨災害義援金」へ御寄附を賜りまして、誠にありがとうございました。

お寄せいただきました御厚志は、被災された市民の皆様への支援のためにお届けいたします。

この度の災害により、本市では真備町を中心として甚大な浸水被害が発生いたしました。

本市といたしましては、一日でも早く市民の皆様が元の生活を取り戻せるよう、復興・復旧に取り組みまいる所存でございますので、今後とも御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬白

令和2年12月

倉敷市長 伊東香織

クラレは世界的なESG投資指数の構成銘柄に選定されています。



2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI社による株式会社クラレのMSCIインデックスへの組み入れ、株式会社クラレによるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による株式会社クラレへのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、その名称、インデックス、ロゴは、MSCI社およびその関連会社の商標またはサービスマークです。

会社概要

社名	株式会社クラレ
英文社名	Kuraray Co., Ltd.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2020年12月31日現在)
本社所在地	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
Webサイト	https://www.kuraray.co.jp/

クラレグループの主な事業

ピニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソブレン	イソブレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、炭素材の製造・販売
繊維	人工皮革、ピニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	水処理用高性能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の〈 〉をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2021年3月25日現在)

取締役会長	伊藤 正明
代表取締役社長	川原 仁
代表取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・専務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	多賀 敬治
取締役・常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
取締役・常務執行役員	高井 信彦
取締役(社外取締役)	浜野 潤
取締役(社外取締役)	村田 啓子
取締役(社外取締役)	田中 聡
取締役(社外取締役)	井戸 清人
常勤監査役	中山 和大
常勤監査役	上原 直哉
監査役(社外監査役)	永濱 光弘
監査役(社外監査役)	谷津 朋美
監査役(社外監査役)	小松 健次
専務執行役員	豊浦 仁
専務執行役員	柏村 次史
常務執行役員	大村 章
常務執行役員	尾松 俊宏
常務執行役員	津軽 利紀
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	高野 浩一
執行役員	鈴木 一
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	池森 洋二
執行役員	藤波 智
執行役員	坂本 和繁
執行役員	大福 幸一
執行役員	藤原 純一